メディカル・プロフェッショナリズム Ⅲ

科目責任者　種　市　　洋
学年・学期　３学年・１学期

Ⅰ．前　　文

メディカル・プロフェッショナリズムとは，「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し，多様性・人間性を尊重し，利他的な態度で診療にあたりながら，医師としての道を究めていくこと」とされています。すなわち，医師には社会から信頼され，思いやりを持って他者に接する態度などの医師に相応しい資質や能力が求められており，プロフェッショナリズムはその最上位として医学教育モデル・コア・カリキュラムにも挙げられています。そのため，本学は６年一貫の「メディカル・プロフェッショナリズム（D-Mep）」を令和5年度に開設しました。順次性を持って計画されたD-Mepでは，単位認定要件として「良き医師となるには」というレポート課題を各学年での単元終了後に提出し，医療に対する考え方の軌跡を履修者が振り返ることも目的としています。

D-Mep IIIでは，患者及び患者に関わる人たちや様々な職種の医療従事者と良好な関係を築きながら協働し，安全で質の高い医療を実践する能力を獲得すること，また，発展し続ける情報化社会を理解し，情報・科学技術を活用しながら医学研究・医療を実践する能力を獲得することを目指し「アドバンスト・コミュニケーションスキル」と「デジタルプロフェッショナリズム」の学修が設定されています。また医師として働くうえで直面する可能性のあるバーンアウトとは何か，さらにそのような状態に適応していく能力についても学びます。将来，情報・科学技術を正しく扱い，多職種連携を実践しつつ患者に寄り添い質の高い医療を提供できる医師となれるよう，真摯に取り組んでください。

三学年

Ⅱ．担当教員

＜ アドバンスト・コミュニケーションスキル ＞

基盤教育部門（心理学）　講 師　　野　畑　友　恵

＜デジタル・プロフェッショナリズム・医学情報の活用とその倫理 ＞

スマート医療研究部門　学内講師　入　江　　駿

＜デジタル・プロフェッショナリズム・医療のDigital transformation（DX）＞

教学IRセンター　学内准教授　山　岸　秀　嗣

＜バーンアウトとレジリエンス＞

医学部長／整形外科学　主任教授　種　市　　洋

＜コーディネーター＞

基盤教育部門（化学）　学内准教授　奥　田　竜　也

Ⅲ．一般学習目標

（１）プロフェッショナリズムの視点から，医学生に求められる態度について学ぶ。
（２）コミュニケーションの視点から，医療に関わる様々な人と良好な関係を築き協働するための基礎について学ぶ。
（３）他者の状況や多様性を理解するためのコミュニケーションを通した情報収集方法について学ぶ。
（４）情報・科学技術を適切に活かし，質の高い医療を提供するための基礎を学ぶ。

Ⅳ．学修の到達目標

（１）社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動することができる。
（２）品格と礼儀をもって，他者を適切に理解し，思いやりをもって接することができる。

（3）他者のプライバシー，苦痛等に配慮し，非言語コミュニケーションを含めた適切なコミュニケーションスキルにより良好な人間関係を築くことができる。
（4）医療に関わる人々の役割を理解し，共通の目的を持って協働することができる。
（5）情報科学技術を取り扱う際に必要な倫理観・デジタルプロフェッショナリズム及び基本的原則を説明することができる。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション，ディベート　3：グループワーク　4：実習，フィールドワーク　5：プレゼンテーション
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	5	22	水	1	アドバンスト・コミュニケーションスキル①② オリエンテーション/コミュニケーションスキルの基礎	野畑友恵	3
2				2			3
3		29	水	1	アドバンスト・コミュニケーションスキル③④⑤ 立場のあるコミュニケーション		3
4				2			3
5				3			3
6	6	5	水	1	アドバンスト・コミュニケーションスキル⑥⑦⑧ 集団，組織でのコミュニケーション		3
7				2			3
8				3			3
9				4	アドバンスト・コミュニケーションスキル⑨ まとめ		3
10		13	木	1	デジタルプロフェッショナリズム①②③ 医学情報の活用とその倫理	入江駿	2,3
11				2			2,3
12				3			2,3
13		20	木	1	デジタルプロフェッショナリズム④⑤⑥ 医療のDigital transformation（DX）	山岸秀嗣	3
14				2			3
15				3			3
16		21	金	1	バーンアウトとレジリエンス	種市洋	1

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

【単位認定要件】

全16回終了後に課す「良き医師となるには」のレポートの提出をもって，D-Mep IIIの単位認定要件とする。このレポートではD-Mep IIIでの学修内容を踏まえ，この段階で自分自身が考える医師像とそれを達成するために必要な4年次に向けた自己の目標を設定し，e-ポートフォリオに記録するものとする。

【成績評価】

「アドバンスト・コミュニケーションスキル」「デジタル・プロフェッショナリズム・医学情報の活用とその倫理」「デジタルプロフェッショナリズム・医療のDigital transformation（DX）」の各担当者が実施する評価の平均点を素点（小数点以下は切り捨て）とし，60点以上を合格とする。

なお，この３つの項目におけるそれぞれの評価方法の詳細は，各講義の第１回目に担当者より説明しLMSにて提示する。

【特筆すべきアンプロフェッショナルな態度への対応】

D-Mepにおいて「特筆すべきアンプロフェッショナルな態度」とは，以下の５点をいう。

いずれかに該当する場合は，減点 または 単位認定を保留 とする。

１）講義・演習への無断遅刻

（一切認めない。10分以上の無断遅刻は無断欠席とみなす。）

２）講義・演習への無断欠席

（一切認めない。）

３）講義・演習に臨む姿勢が 極端に消極的 又は 医師を目指す者として不適切 と認められる場合

４）「まとめと試験」等成績評価にかかる考査実施における不正行為

（本学医学部試験及び成績評価に関する規程を準用する）

５）レポートにおける剽窃（盗用）行為（同上）

Ⅶ. 教科書・参考図書・ＡＶ資料

教科書は特に指定しない。

参考図書・参考文献については，以下のほか，講義時に適宜紹介する。

【D-MepIII概論】

大生 定義「プロフェッショナリズム総論」，京府医大誌 120（６）,pp395-402, 2011

Ⅷ. 質問への対応方法

各教員の研究室に来室する際は，平日の９：00-17：00 を基本とし，事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

教員のメールアドレスは別途示す。

■ D-Mep III 全体を通しての質問・連絡・相談など

→ 奥田 竜也（基盤教育部門・化学，教室棟３F A307）

■「アドバンスト・コミュニケーションスキル」

→ 野畑 友恵（基盤教育部門・心理学，教室棟３F 心理学／教育支援センター 教員室）

■「デジタルプロフェッショナリズム・医学情報の活用とその倫理」

→ 入江 駿（スマート医療研究部門，基礎棟４F 425B）

■「デジタルプロフェッショナリズム・医療のDigital transformation（DX）」

→ 山岸 秀嗣（教学IRセンター，）

■「バーンアウトとレジリエンス」

→ 種市 洋（医学部長／整形外科学，臨床医学棟５F）

Ⅸ．卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

Ⅹ．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各項目のフィードバックの方法については，講義時に担当教員より説明する。

単位認定要件となる「良き医師となるには」のレポート課題については，学生自身の学修と成長の記録としてe-ポートフォリオに記録するので，卒業時まで各自で活用されたい。

Ⅺ．求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：シラバスを参考に講義の要点を確認すること。（所要時間の目安30分）

事後学習：講義の内容をまとめること。（所要時間の目安 30 分）

なお，各基盤科目の詳細な事前学修・事後学修については，各担当教員により説明する。

Ⅻ．コアカリ記号・番号

PR-01-01-01，PR-01-01-02，PR-01-02-01，PR-01-02-02

PR-02-01-01，PR-02-01-02，PR-02-02-01，PR-02-02-02

PR-03-01-02

GE-01-03

CM-01-01-01，CM-01-01-02，CM-01-01-03，CM-01-01-04，CM-01-01-05，CM-01-02-01，CM-01-02-02

CM-02-02-01，CM-02-03-01，CM-02-03-02，CM-02-03-03，CM-02-03-04

CM-03-01-01，CM-03-01-02，CM-03-02-01

IT-02-02-01，IT-02-02-02